

乳がん患者様を診察されている先生方へ

このたび先生が治療されていらっしゃる患者様から卵子・胚の凍結保存に関するお問い合わせを頂きました。そこで、簡単ではございますが、乳がん患者様の卵子・胚凍結保存に関しての資料を作成させて頂きました。

当院初診までに、貴院紹介状(診療情報提供書)、もしくは当院 HP より当院推奨の紹介状をダウンロード頂き、ご準備ください。

貴院にて紹介状をご準備頂く場合には以下の内容の記載をお願いします。

①原疾患名、②手術日（予定日を含む）、③放射線治療開始予定日、④化学療法開始予定日、⑤ホルモン受容体の有無、⑥排卵誘発剤及びホルモン剤使用の可否、⑦採卵可能な全身状態であるという先生のご判断、⑧採卵可能な猶予期間

現時点ではホルモン感受性陽性の患者様へは、ホルモン値の上昇ががんを増悪させる可能性があるため原則的には卵巣刺激を行っておりません。完全自然周期の場合、毎月の生理（自然）周期で排卵される卵子を採取します。約1カ月に1回採卵を行い、個人差はありますが、平均1-2個の卵子が1回の採卵で保存できます。しかし、患者様のご要望及び主治医のご判断により排卵誘発剤及びホルモン剤の使用が許容できる場合は、紹介状に排卵誘発剤及びホルモン剤使用を『許容する』『許容しない』の記載をお願いします。（当院 HP より紹介状をダウンロード頂けます。）

スケジュールとしましては、生理3～8日目に来院頂き、採卵を行うまでに複数回（4-5回）の来院が必要となります。

卵子を保存できる年齢は、その後の治療期間を考慮して43歳以下です。

本資料は卵子採取・凍結保存につきまして現時点での状況をご説明となります。今後の技術的な状況変化、並びに社会的状況の変化により内容を変更する場合がありますこと、予めご了承頂きますようお願い申し上げます。

2018年1月1日
加藤レディスクリニック
院長 加藤恵一
電話：03-3366-3777
FAX：03-5332-7373